

## スカパーJSATグループ 2021年度上半期番組審議会（議事要旨）

（スカパーJSAT 第36回、スカパー・エンターテイメント第29回）

開催年月日：2021年9月22日（水）

開催方式：リモート形式での集合開催

新型コロナウイルス感染拡大防止及び番組審議会参加者の安全確保の観点から、リモートシステムを利用して開催。ご都合のつかない委員からは事前に書面でのご意見を提出いただいた。

出席者

（審議委員）

委員数：7名 /出席委員数：7名（うち1名は事前に書面で意見提出）

審議委員長：高畑 文雄

委員：崔 洋一

委員：二宮 清純

委員：草野 満代

委員：田中 里沙

委員：安田 洋祐

委員：山本 浩二（書面参加）

（スカパーJSATグループ）

高田 真治：スカパーJSAT(株) 代表取締役 執行役員会長

米倉 英一：スカパーJSAT(株) 代表取締役 執行役員社長

小川 正人：スカパーJSAT(株) 取締役 執行役員専務 メディア事業部門長

手塚 久：スカパーJSAT(株) 執行役員 メディア事業部門長代行

奥永 孝仁：(株)スカパー・エンターテイメント 代表取締役社長

志塚 真理：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 スポーツジャンル事業部長

明石 静：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 エンタメジャンル事業部長

相良 美恵：(株)スカパー・エンターテイメント 放送推進部長

（報告者）

川上 知宏：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 スポーツジャンル事業部第3チーム長

藤田 一真：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 配信事業部 営業チーム

小林 いん：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 エンタメジャンル事業部 第1チーム

清水 瑠加：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 エンタメジャンル事業部 第2チーム

奥永 孝仁：(株)スカパー・エンターテイメント 代表取締役社長

（事務局）

服部 直志：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ推進部長

植田 恭輔 / 山田 巳奈 / 浅田 裕海 / 岩倉 俊樹：同 コンテンツ推進部

## <番組審議>

### 審議番組 (1) 『RIZIN で逢いましょう』

報告者：川上 知宏/藤田 一真

#### ◆放送概要

放送日：2021年4月19日（月）開始 毎月2番組程度 新作更新

放送チャンネル：スポーツライブ+

配信：スカパー！オンデマンド

#### ◆番組概要

2015年12月に開催された「RIZIN」第一回大会を皮切りに、試合映像とともに、当時を知る現役選手や関係者達が、激闘の舞台裏を振り返っていく『副音声』番組。

#### 【出演者】

現役の人気選手や団体社長等の関係者。

#### ◆番組企画意図

過去の試合映像に音を付け直す『副音声』の魅力・可能性に着目。コロナ禍でプロ野球等のスポーツが中止となり、新たなコンテンツが求められる状況下、制作期間や経費を抑え、すぐに放送開始できる番組を制作。

現役の人気選手や主催団体等の関係者をキャスティングし、制作スタッフやキャストも関係者のみに限定することで、裏話や当時はタブーだったような話題をお伝えしていく。

#### ◆審議委員会からのご意見

- 副音声での選手や業界の裏話も、新しく知ることの良さがある。
  - 裏話もコア層には満足度がある一方、新たなファンの獲得には詳細を文字スーパーでフォローするなど丁寧に説明するサービス精神もあった方が良いのではないかな。
  - 今後は、例えばデータを駆使したり等、視聴者を啓蒙するような番組作りをしていくのも意味があると思う。
  - 専門家による切れの良いトークが展開され、謎解きのような部分もあり、当時の試合の論評や意味付けをしてもらいながら見る面白さに気づかされた。また、今後のブランディングをどう考えるか等のプロの視点がリアルに聞けたのは良い。
  - 番組での出演者の会話は、多少荒っぽい言葉でやり取りされているものもあるが、それが人気の源泉であると考えられる。また、発言等の部分は、現段階では外部から指摘を受けるような状態ではなく、問題ない。番組終了後の出演者同士の素の会話も入ってくれば、より特徴的な出演者達の面白みが出てきて良いのではないかな。
  - より深い部分を追求する、踏み込んでいくと、もっと良くなるであろう。
- ➡ 大変貴重なご意見をいただき感謝いたしますとともに、番組プロデューサーとして視聴者の方々にはいかに楽しんでいただくかという点に創意工夫を凝らしてまいります。

## 審議番組（2）『ジェジュンJ!』

報告者：小林 いん/清水 瑠加

### ◆放送概要

放送日時：2021年3月～8月まで毎月1話

放送チャンネル：BSスカパー！/日テレプラス

配信：オンデマンド販売

### ◆番組概要

コロナ禍で日本での活動が叶わない中、ジェジュンが母国である韓国の様子や自身のメッセージを伝える番組。

「joy、journey、join、Japan」をテーマに韓国の街ブラ、旬な施設やレストラン紹介、和食づくりなど、韓国で活躍する日本人ゲスト等とともにジェジュンが体験。コロナ禍でも明るく前に進むジェジュンを通じ、ファンへ応援メッセージを贈る。

### 【出演者】

ジェジュン 他

### ◆番組企画意図

2019年から構築している「スカパー！×ジェジュン」のパートナーシップを背景に、日本のファンとの間に新たな接点を創出し、「今のジェジュン」を届けるファンマーケティングを表現する冠レギュラー番組として企画。

### ◆審議委員会からのご意見

- コロナ禍では番組制作上の難所、障壁が様々あったと想像はできるが、番組責任者であるスカパー！が韓国側（権利元、アーティスト、制作会社）をハンドリングした体制下で制作を行うことが重要であると感じる。
  - ジェジュンとの関係を継続的に構築していたから、この番組を制作できたと思うと、非常に貴重なコンテンツだし、スカパー！ならではと感じた。
  - この番組は見ていてほっこりする。ファンからすれば余計な要素がないから、逆にどっぷりとジェジュンを見てられるし、気持ちを温かくしてくれ、癒される感覚がある。
  - ジェジュン1人の進行はやや間延びする部分もあり、ファンの方には素の部分が見られてよかったかもしれないが、より広げるなど工夫の余地ありと感じる。
  - 今のジェジュンを届ける、というファンマーケティングとしての初期の目的は達成されていると思う。その反面、ツルンとし過ぎており、非常に予定調和的。次回以降も作るのなら、ミスマッチを楽しむ、チャレンジを求めたい。
  - コアファンを大事にすることは非常に重要であって、それがスカパー！の使命なのではないか。その部分を深めることで、さらには企業イメージを高めることになるのではないか。
- ➡ いただきました貴重なご意見を踏まえファンマーケティングを更に推し進めてまいります。また、番組クオリティの向上につきましても、ご意見を踏まえ更に意識を高めてまいります。

<報告事項>

スカパー・エンターテインメントの番組審議について

報告者：奥永 孝仁

<報告内容>

(株)スカパー・エンターテインメントでは、衛星基幹放送事業者として、2Kの7チャンネル、4Kの8チャンネル、合計15チャンネルを110度上で、また一般放送事業者として計138チャンネルを運営。

2019年上期より内規・判断基準を明確化。LEVEL1「様子見」、LEVEL2「要注意」は対応不要、LEVEL3「要対応」は放送を見合わせる等の対応をとるべきとの基準を策定し、番組供給事業者へも説明をしている。

グループ内でのコンプライアンス対応については、コンテンツ推進部内で番組とCMの考査を実施。案件発生の場合、対応案を作成、考査相談役とも話し合いののち、総責任者が最終決定をし、放送事業者や権利元等々への対応を図る運営を行っている。

以上